



ナイス福岡 会報

くすのき

2021年11月
第 **316** 号



様々な実りがありますね。イヌと散歩すると、植物のタネを運ばせる戦略が実感できます。 aiko

お問合せ： 福岡県自然観察指導員連絡協議会
(NAIS Fukuoka : The Nature Interpreter Society of Fukuoka)
代表：田村耕作／事務局長：小野 仁
編集：田村耕作・山本勝・松永紀代子／会計：宮原俊彦
〒814-0113 福岡市城南区田島3丁目7番14号
田村の自宅内 TEL : 090-8220-6160
URL : <http://www.kurabird.com/>

掲示板 URL: <http://bbs9.fc2.com/php/e.php/~naisfukuoka/>

★都市公園で自然観察会★

春日公園での自然観察会(122回)

日時：11月20日(土) 10時から12時

の予定です。公園の利用が10/1から可能になりました。

【連絡先】 担当：田村 耕作

TEL 090-8220-6160 [田村の携帯]

注意 各団体とも、新型コロナウイルス感染拡大状況により、下記の予定も変更になることがあります。

詳しくは各団体にお問い合わせください。

日本野鳥の会 福岡支部 主催

※一般参加費：300 円（中学生以下無料）

11月21日（日）12月19（日）
天拝山探鳥会（筑紫野市）
時 間：9:00～12:00
集 合：天拝山歴史自然公園
問合せ：090-7165-5026（重松尚紀）

11月28日（日）12月26日（日）
久末ダム探鳥会（福津市）
時 間：9:00～12:00
集 合：久末ダム多目的広場横
駐車場（管理事務所下）
問合せ：0940-33-7846（高原和幸）

12月5日（日）
今津探鳥会（福岡市西区）
時 間：9:00～12:00
集 合：玄洋高校西側道路
問合せ：090-8220-6160（田村耕作）

12月11日（土）
大濠公園探鳥会（福岡市中央区）
時 間：9:00～12:00
集 合：ボート乗り場前
問合せ：092-834-8644（持永俊行）

12月12日（日）
和白海岸探鳥会（福岡市東区）
時 間：9:00～12:00
集 合：JR 和白駅前の公園
問合せ：092-606-0012（山本廣子）

12月7日（火）
県営春日公園（春日市）
時 間：10:00～12:00
集 合：音楽堂ステージ側（第5 P）
問合せ：092-592-3423（小野仁）

日本野鳥の会 筑後支部

11月28日（日）
高良山
時 間：9:00～12:00
集 合：高良下宮社
参加費：会員 100 円 一般 200 円
問合せ：090-4357-3043（溝田康博）

福岡植物友の会

11月21日（日）
高良山
問合せ：佃 昇（092-662-2983）
要予約 参加は有料

久留米の自然を守る会

活動内容に興味をお持ちの方は下記にお尋ねください。

問合せ：0942-43-7959（河内）



三国丘陵の自然を楽しむ会 主催

<http://mikunikyuryo.blog107.fc2.com/>

12月4日（土）
集 合：九州歴史資料館駐車場
時 間：9:30～12:00（早めに終わるか
もしれません）
問合せ：092-920-3072
参加費：大人 200 円
コロナ対策：ブログにて確認
ブログ 「三国丘陵の自然を楽しむ会」で
[検索](#)
観察会や様々な生きものの情報を載せて



三国丘陵の自然を楽しむ会 観察の様子

和白干潟を守る会 主催

11月27日（土）
定例会議
時 間：12:30～14:00
集 合：和白干潟を守る会事務所
問合せ：092-606-0012（山本廣子）

11月27（土）
クリーン作戦 と自然観察会
時 間：15:00～17:00
集 合：海の広場 駐車場なし
長靴・軍手があると便利
問合せ：090-1346-0460（田辺スミ子）



ササコフキツノアブラムシとタイワンハナアブ? 三国・松永

2021年10月 私のデジカメ日誌より 本のむし

今回は、10月1日(旧暦8月25日)～10月31日(旧暦9月26日)までのデジカメ日誌です。



10月5日(旧暦8月29日) 唐津市屋形石七ツ釜
呼子港から七ツ釜海食洞群の土器崎にかけて、玄武岩の柱状節理が縦横無尽に海へ流れ込んでいる。2～3万年前の溶岩流によって、台地状の小さな岬がいくつも形成されているようだ。壮大な景観にただただ圧倒される。



10月8日(旧暦9月3日) 筑紫野市天拝坂
車内に15mm程の緑色の美しい虫がいた。クサカゲロウのようだ。卵は優曇華の花ともいわれ、以前天神のアクロス山で見た。幼虫にはごみをまとったアリマキジゴクと言われる種もいる。アリマキは幼虫の主食アブラムシのこと。



10月8日(旧暦9月3日)太宰府市通古賀・筑紫野市中央
久々に筑紫野市街地を流れる鷺田川をのぞいてみた。体長10cm以上のオイカワ(上)とカマツカ(下)を観た。どちらも、在来種のコイ科の魚である。



10月17日(旧暦9月12日) 筑紫野市天拝公園
久しぶりに探鳥会に参加した。早々にカワセミ(み)が現れ、皆さんを楽しませてくれた。皆さんが喜んでいる姿を見るのが楽しい。アオギリの実の皮に居たのは2cmほどのマイマイの仲間。



10月25日(旧暦9月20日) 宮崎県都井岬御崎神社
やたら棘がきつく、葉の厚ぼったいアザミがあった。国立科学博物館の「日本のアザミ」を観るとハマアザミに近い。しかし、九州の花図鑑には掲載なく、オイランアザミならある。科博館の分布図では、この両種、都井岬は範囲外。??



10月28日(旧暦9月23日) 筑紫野市天拝坂
町内で1週間ほど前に声だけは遠くに聞こえていたのだが、やっと姿を見せてくれた。ジョウビタキの♀。30日にはオスも見られたが、この子がどうも追い出したようだ。

くすのき 2021年11月号投稿原稿-本のむし

Nais-fukuoka 福岡県自然観察指導員連絡協議会

会員からの投稿(1) 渋田和美

つい最近まで夏だと思っていたら、3日ほど秋があり、あっという間に冬が来ました。冬が来たと同時にしっかり冬の鳥が登場しています。秋の実の収穫は失敗しましたが ^^;

クロツラヘラサギとヘラサギが10羽ほどの群となって、入ってきてます。シロチドリ、ミユビシギ、ハマシギも50超の群となっています。今日はタゲリがふらりと舞い降りてきました。

冬本番ですね！



10/30 津屋崎干潟と 11/3 福間海岸

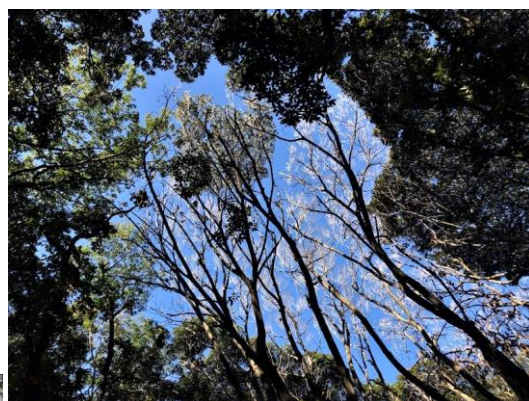
会員からの投稿(2) 志賀 壮史

ナラ枯れのマテバシイ

11月7日、鴻巣山の森の中で見上げると、ナラ枯れで葉を落としたマテバシイの枝が日にあたって白く輝いてるように見えました。木漏れ日が落ちるようになった林床ではムクノキやカラスザンショウの芽生えが出ていました。

編集部 ナラ枯れの現象はあちこちで見られています。この先どうなるか注視していくことが大事なかなと思います。

この写真は春日公園で枯れたコナラの樹皮です。この中央の穴に住む生きものの影響のようです。連鎖して欲しくないですね。



会員からの投稿(3) 中岡康二

以前、ネットニュースをみていましたら、佐渡のトキが害鳥になったとのことでした。

理由：田んぼを踏み荒らす、サドガエルを捕食しすぎ等

保護し増えすぎたから放鳥へとのことですが、鳥インフル等のことがらを考えるなら、計画性が浅いと思います。

SDGs推進について

悪い間違っているとは思いますが、正しいとは思いません。

理由：国連決議だからと言って、一方的半強制的だと思います。また、検証が伴うものと思いますが、どこも検証しようとはしていないように思われます。

SDGsを推進する前に、多様性について考えていくべきだと思います。以前、ラジオで多様性は「寄らば大樹」ではなく、「弱肉強食」の基礎の中が自然界ですので、その中でも共に進化、共存ともに生きていくための、オリがない自然環境の中で生まれた考え方だと思います。

一般的な考え方はバラエティ、ただ個が多くあるだけ。これは動物園のような考え方。

今、逆算の考え方が生まれています。服等もいいものを安価で、が基本ですが、いいものは高価で当たり前、安価では対応年数に問題があります。価格には限度があるはず、製造過程において労働内容が適正で有り、健全な適正な賃金が保証されるべき。

SDGsはしっかり議論すべきもので、それに応じた責任を負う覚悟が必要だと思います。

アンケートに対する主な回答

○：関心ある ×：関心ない
△：どちらとも言えない

- 北海道 △ 生息記録はあるが、生態についての情報がなく、現時点で再導入の適地となり得るか判断できない
- 宮城県 △ トキ放鳥の議論をしたところがない
- 新潟県 ○ 受け入れに関心があるが、環境省の実施要件を待ちたい
- 長野県 △ 時折飛来が確認される程度で、現時点で受け入れ可否を判断できない
- 千葉県 △ 市町村の意向を承知していない
- 石川県 ○ 自然環境の保全や再生に意義がある
- 福井県 × コウノトリが生息できる環境の保全・再生を進めており、新たな事業を受け入れる予定はない
- 香川県 × トキの生息に適した環境(堀田など)がない
- 広島県 × ダルマガエルへの影響を専門家が危惧している
- 鳥根県 ○ 出雲市が受け入れに関心1900年頃には飛来しなくなつたとされており、佐渡島での再導入後も飛来していない
- 宮崎県 × ツルなどの飛来・繁殖事業が先行している
- 沖縄県 △ 生態系や他の希少種、在来種への影響を懸念

野生化、全国対象へ 都道府県の受け止めは――

佐渡島の空を飛翔するトキの群れ(いずれも環境省提供)

日本各地の空にトキは戻るか――。日本農業新聞が都道府県に行ったアンケートからは、国内全域を対象とした国の野生復帰(再導入)事業への期待と不安が交錯する一方、希少生物との共生をめぐる課題も浮かび上がった。(栗田慎一)▶2面参照

トキ復帰 期待と戸惑い

●前向き―― 里地里山で歓迎

石川県内で日本産トキ最後の1羽の死亡が確認された後、中国からの同種導入で繁殖が進み、現在、新潟県の佐渡トキ保護センターの他、長岡市トキ分散飼育センター、多摩動物園(東京都)、いしかわ動物園(石川県)、出雲市トキ分散飼育センター(島根県)など4都県で施設で分散飼育が行われている。このうち野生復帰の受け入れに「関心ある」と答えたのは新潟、石川、島根の3県だ。特に島根県が受け入れ先として記した出雲市では、2011年に佐渡島から分散飼育のため4羽(2ペア)を受け入れ、「トキによるまちづくり構想」として野生動物植物と共生する里地里山作りを進めている。市民の間にも「出雲で放鳥を」と歓迎する声があるという。

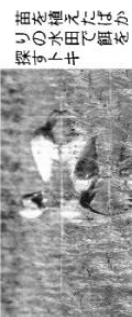
●慎重論―― 種のかく乱懸念

一方、トキと同様の生息環境が必要とされるコウノトリの環境作りに取り組む複数の

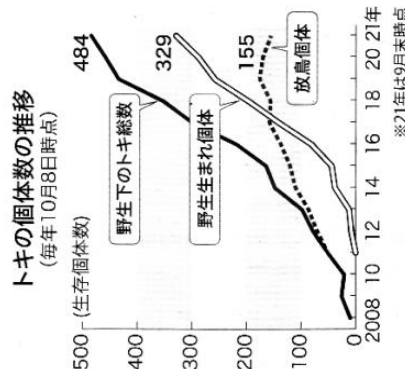
環境整備手いっぱい／地域の合意必要 共生へ高い壁

●様子見―― 国の要件を待つ

北海道の担当者「日本鳥類目録に道内での生息記録がある」と調べた上で、「冬も水を張る『冬水田んぼ』や『不凍河川』が必要だと聞いており、寒さの厳しい北海道が要件に当てはまるかは分からない」と議論の行方を見守る姿勢だ。北海道のように「どちらとも言えない」とした府県の多くが、詳しい選定要件が国から示されてから判断するとの考えだ。佐渡島での再導入後に飛来実績のある東北などの7県の大半も同様だった。



苗を植えつけたばかりの水田で餌を採るトキ



県では「新たな事業を受け入れる余裕はない」と戸惑う。福井県は「コウノトリなどが生息できる水辺の生き物の生息環境の保全・再生を推進している」とし、徳島県も「コウノトリの定着促進が展開されている」と答えた。ナベツルなどの越冬地となっている愛媛県や長崎県も、ツルの環境整備で手いっぱいとの見解だ。香川県は「トキの生息に適した環境(湿田など)がない」と言い切った。一方、トキなど大型鳥類の飛来を恐れる声もある。広島県は、県条例で保護指定種となっているダルマガエルへの影響を「専門家が危惧している」と懸念。富山県は「希少種の生息は喜ばしい」としつつ「種のかく乱や新たな農業被害を引き起こす可能性もあり、地域に合意が得られていない」と言えないところだった。

